

木祖村議会だより

道しる



条例改正と庁内機構改革



令和2年2月13日

No 167

駒ヶ岳を背に凧揚げをする少女

令和2年新年のごあいさつ

古畑節行 議長



新年明けましておめでとうございませう。旧年中は、木祖村議会に温かいご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年、村では開村130周年記念式典が盛大に挙行され、次の代に向けて新しい歴史が始まりました。いつまでも笑顔あふれる木祖村が続くよう、頑張つて参りませう。

さて今、木祖村にとって大きな課題は、元氣な木祖村を、どうやって次の世代に引き継ぐかということでありませう。

人口の減りを少なくするために今ある産業が、より繁栄することに加えて新しい仕事を作り、他所からの移住など若い人たちが増えることが大事になってきませう。

幸い12月に、道の駅の隣に農産物加工所がオープンしました。

この加工所は木祖村産の農産物を木祖村で加工し、木祖村の道の駅や村内外で販売するという大きな目的を持ってきませう。

この施設が成功すれば雇用も増え、農業も村も元氣になります。議会もこの施設が成功するよう、様々に提言をして参りませう。

またやぶはら高原スキー場も施設の老朽化や温暖化、スキー離れなど大変苦戦してきませう。村は「スキー場ありかた検討会」を立ち上げ知恵を出し合つておきませうが、より良い方向に向かひませう。沢山の御意見をいただきたいと思ひませう。

私たち議会は、4月の議会議員選挙において、新しく5名の議員が加わりませう。この村を愛し、少しでも良くしたいと思ひませうあります。

村民のみなさまのご意見をお聞きしながら、誰もが住んでよかつたと思ひませう村づくりには、一丸となつて取り組んで参りませう。

元氣な木祖村のために、村民の皆様と村と議会が一緒になつて村の将来を考えていませう。一層のご支援・ご協力を賜りませう。お願ひ申し上げます。

深澤衿子 副議長



いよいよ社協事務所が入る福祉施設の建設が始まりませう。私たち村民の生涯現役、健康第一を目指す長寿の村作りにはしっかりと取り組んでいけるよう頑張ります。応援いただく皆さんの声を大切に、人に寄り添う心が育まれていく事を願つておきませう。今年も宜しくお願ひ致します。

鈴木正弘 議員



地域の活性化が大きな課題に取り上げられてきませう。

人口減少に伴う住民との意思疎通を図り、木祖村の自慢できる立地条件の良い所をどのように、村内外の方々にも知つていただく事が、村民にとって幸せにつながるのではないのかと思ひませう。一日一日を大切に活動いたしませう。本年も宜しくお願ひ致します。

安原千佳世 議員



昨年の暮れに東京の2人の友人が木祖村にふるさと納税してくれました。お礼品は木曾路のお酒と樽のグラスでした。同封されたパンフレットをみて自然が素晴らしいところだと言つてくれました。私が議員になつたのを契機に木祖村に関心を持つたようませう。こういう小さな積み重ねが大切とあらためて思ひませう。この小さな村の存続と発展のために何をなすべきか日々考えていませう。今年もよろしくお願ひ致します。

田中寛幸 議員



住民の福祉の向上と安心な村づくりの為、みな様の声をより多くお願ひして、議会活動をしていませう。

どうか今年も一層のご指導、ご協力を賜り元氣に頑張りたいと思ひませう。宜しくお願ひ致します。

大久保繁子 議員



明けましておめでとうございませう。

昨年は私にとって大転換の年でした。何か背中を押される思いで立候補し、皆様から144という数字をいただき、それを重く受け止めながら1年を過ごして来ませう。が、やっとスタートラインに立てた気がしてきませう。やはり女性の目線は必要だと感じてきませう。

今後の村政には厳しさが見え隠れしてきませうが、女性の力を反映させ、明るい村作りを目指しませう。宜しくお願ひ致します。

丸山幸一 議員



昨年は改めて木祖村を知る1年となりました。新たな出会いや感動があり、みんなが一生懸命に頑張る力を感じました。自然豊かな源流の里で住んでよかつた、好きです！木祖村と言ひ合える住みよい村づくりのため、微力ですが頑張つていませう。

青木 功 議員



自然豊かな木祖村ならではの、又、木祖村だからこそできる各産業の発展、そして、地域住民が安心・安全な生活の基盤となる地域活性化の為、施策の立案・推進をさらに進めていきたい。本年もよろしくお願ひ致します。

栗屋 正一 議員



令和も早2年に、私も議会2期目にはいりました。村も第2次総合戦略（5年）のスタートの年です。元気の出る村作りには、この具体的施策を村政、議会、住民一丸となり推し進めることだと思いません。精一杯頑張ります。

田上 芳朗 議員



人口減少、高齢化と嘆いていても始まらない。村民の声、情報を収集し、村政へと提言し、村政がめざす『笑顔・笑い声の絶えない村』となるよう、議員として、迅速な行動を心がけ、日々精進して行く所存です。

12月議会

令和元年12月3日(火)再開された木祖村議会12月会議では、下記の議案等について慎重審議、全案件を原案のとおり議決、12月19日(休)に休会した。

令和元年 木祖村12月議会 提出議案

■ 12月 3日 専決報告2件、議案9件（条例改正5件、条例制定3件、指定管理者の指定1件） 第51号～59号

専決報告第8号 令和元年度木祖村一般会計補正予算（第3号）

専決報告第9号 木祖村印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について

議案第51号 木祖村表彰条例の一部を改正する条例について

議案第52号 木祖村下水道条例の一部を改正する条例について

議案第53号 木祖村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

議案第54号 木祖村議会の議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について

議案第55号 木祖村特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例について

議案第56号 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例について

議案第57号 木祖村パートタイム会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例について

議案第58号 木祖村フルタイム会計年度任用職員の給与に関する条例について

議案第59号 木祖村農産物加工センター指定管理者の指定について

■ 12月11日 議案10件（条例改正3件、木曾広域連合規約変更1件、補正予算6件） 第60号～69号

議案第60号 課設置条例の一部を改正する条例について

議案第61号 こだまの森設置および管理等に関する条例の一部を改正する条例について

議案第62号 木祖村営住宅条例の一部を改正する条例について

議案第63号 木曾広域連合規約の変更について

議案第64号 令和元年度木祖村一般会計補正予算（第4号）

議案第65号 令和元年度木祖村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）

議案第66号 令和元年度木祖村後期高齢者医療制度特別会計補正予算（第2号）

議案第67号 令和元年度木祖村営水道特別会計補正予算（第3号）

議案第68号 令和元年度木祖村農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）

議案第69号 令和元年度木祖村公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）

総額31億8千65万円

令和元年度一般会計補正予算 増額3千324万8千円

主な科目内容の一覧

歳入

村道奥木曾1号線落石対策負担金	24,000千円
福祉医療費給付事業補助金	1,060千円
みんなで支える里山整備事業補助金	2,424千円
東海地区木祖村人会寄付金	96千円
財政調整基金繰入金	1,583千円
そば乾燥施設等使用料	88千円
過疎対策事業債	5,000千円

歳出

人事院勧告に基づく議員・特別職・一般職・嘱託職員の人件費補正	2,550千円
村営水道特別会計	40千円
農業集落排水事業特別会計	41千円
公共下水道事業特別会計	49千円
外灯修理3ヶ所	249千円
村営住宅修繕費	700千円
福祉医療費給付事業	2,212千円
縁結び事業	602千円
後期高齢者医療広域連合負担金	1,010千円
児童クラブ支援員賃金	714千円
生ゴミリサイクル補助金	40千円
そば乾燥施設管理委託料	89千円
〔新規〕ライフライン危険木除去工事	2,964千円
スキー場等観光宣伝費	1,500千円
〔新規〕村道奥木曾1号線落石防止ネット布設工	36,200千円
学校給食臨時調理員賃金	2,177千円



村民の生活に係わる事業展開のための増額補正

松塩筑木曾老人福祉施設組合 議会報告 (11月の定例議会)

深澤 衿子

■ 議案 第1号 30年度一般会計歳入歳出決算認定

歳入 47億4,365万7,753円

* サービス収入は42億2,049万7,592円

組合費 2億4,180万円 (サニーヒルきそ大規模改修工事やまびこの里実施設計兼務各施設の備品購入等、財政調整基金から繰入7,000万円、職員退職手当募金から1億1,716万2,848円等)

歳出 46億8,963万2,803円

* 総務費 2億8,126万7,343円 * 民生費 41億7,300万3,022円 等

(サニーヒルきそ・デイサービスセンターそほく 2億1,157万2,346円

施設の長寿命化との居住環境の向上を図るための大規模改修をした。)

■ 議案 第2号 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例

■ 議案 第3号 松塩筑木曾老人福祉施設組会计年度任用職員の給与等に関する条例

■ 議案 第4号 松塩筑木曾老人福祉施設組会计年度任用職員の退職手当に関する条例

■ 議案 第5号 公平委員会委員の選任について

■ 議案 第6号 令和元年度松塩筑木曾老人福祉施設組一般会計補正予算 (第2号)

◎その他 全員協議会において、令和2年～4年度の実施計画を策定し事業の内容、組合経営の流れの説明を受ける。(信頼されるサービスの提供・快適な生活環境の創出、職員の資質向上、安全で衛生管理の充実をはかる。)

請願・陳情について

本年12月議会に各団体より、各市町村議会に「陳情」が提出されました。3件の陳情を委員会審議にて審査を致しました。

陳情書 1 私立高校に対する公費助成をお願いする陳情【議決】 提案議員 鈴木正弘

内容 私立高校に於いては、個々の生徒の個性を育むことによって学習、スポーツ等に大きな成果を上げていく。しかし、低迷する経済状況の中、公立高校と私立高校との格差が大きく保護者の学費負担が大きい。

①私立高校への就学支援金制度の拡充並びに、経常費の補助の増額を行うこと。

②私立高校の教育条件改善のため施設、設備費の補助を行うこと。

③私立高校の保護者負担を軽減するため学納金の補助を行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出しました。

長野県木曾郡木祖村議会

【意見書提出先】 (内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、長野県知事、長野県総務部長)

陳情書 2 「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情【議決】 提案議員 田中寛幸

内容 2019年地域最低賃金は、最高の東京で1,013円、長野県では848円であり、地域格差の拡大は深刻である。中小企業・小規模事業所に対して、全国一律の最低賃金制度実現を求めるものである。

①政府は、働く人の生活を支えるため、最低賃金をすぐに1,000円以上に引き上げ、そして1,500円をめざすこと。

②政府は、最低賃金法を改正し、「全国一律最低賃金制度」を実現すること。

③政府は、最低賃金の引き上げを円滑にするため、中小企業への支援策を拡充すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出しました。

長野県木曾郡木祖村議会

【意見書提出先】 (内閣総理大臣、厚生労働大臣、中央最低賃金審議会会長)

陳情書 3 令和元年度 木祖村連合自治会 陳情書

内容 令和元年度における各自治会要望事項で生活環境の改善や防犯、防火などに関わる要望。継続140件、新規56件合計196件の陳情

厚生文教・産業経済委員会へ関係部分を付託 【承認・採択】

【提出先】 木祖村村長、議会議長

■ 補正予算

結婚支援

問 平成30年度からの結婚マッチングシステムにより紹介・お見合い件数が増えては来ている。成婚後村外へ移住してしまう可能性があるかもしれないが、その点はどのように考えるか。

答 可能性はある。いくつか条件もあり、村としても他で成婚した方々がこの木祖村に来てくれることも望んでいる。

問 現在の源気出会いサポートセンター村内登録者はどのくらいあるのか。

答 男性10名・女性4名である。

問 結婚支援で補正が増額になっているのはなぜなのか。

答 お見合いの件数が増えた関係の増額である。

問 今年度の相談や紹介お見合いの実績はどのくらいあったのか。

答 全体で127件の相談があり、村内村民に関する相談等は41件である。

■ 請願・陳情

私立高校

問 公立高校も人口減少に伴い生徒数が減ってきているのに、私立高校の中信地区では、何か対応がなされているのか。就学金だけを求めるのはどうなのか。

答 今、地元木曽でも子どもの将来像を考える検討会などが立ち上がっている。中信ではまだこのような検討会は無い。しかしながら木曽郡内からも私立高校に35人の子どもが通っており、今は学校に対しての補助と言うより保護者に対しての補助のためとして理解していただきたい。郡内では1人に2万円の補助額で統一をしていると説明があった。

(この件は、県と国に対しての陳情として理解し採択)

最低賃金と中小企業

問 最低賃金改善と中小企業支援の拡充についてはどうなのか。

答 東京都と比べる事は無理だから反対する理由がない。(採択)

台風19号により、長野市長沼・穂保地区で被害を受けた 小学校体育館と社会福祉協議会事務所です。 (ボランティア活動での写真)



産業経済

■ 条例改正

課の設置条例の改定

【説明】 庁内の機構改革により農林課と商工観光課を統合し産業振興課を新設する。

問 以前管内に産業振興課があったが2課に分かれた理由は何か。

答 観光に力を注ぐため2課に分けて運営してきたが現在観光協会が法人化され連携して業務を行っている。また商工観光課職員が3人で行う業務も大変なこともあり、以前の様に産業振興課として連携をとり、まとまりを大きくして機動性を確保したい。

こだまの森

条例改定・料金改定

【説明】 料金が条例改定内となっているから条例を改定したい。

問 条例改定の理由は。

答 料金は条例で定められているため条例を上回る料金は取れない。今まで、こだまの森の料金改定はしていないが、「テニスコート照明設備」利用料の追加と合わせ恐怖感のある夜の巨大迷路のように付加価値を付けた利用料金の設定をする。

問 セミナーハウスの料金体系はどうなっているのか。

答 お借りしている建物なので、条例では定めていない。

問 こだまの森に於いて、キャンプのフリーサイトと持ち込みの違いはどのように違うのか。

答 芝生グラウンドがフリーで、それ以外は持ち込みである。

問 遊具撤去の跡地利用はどうなっているのか。

答 今後どのような物を入れて行くかは、まだ模索中。

問 プールの改修の件で、今年と同じように来年も利用するのか。

答 財源があれば改修したい。これからの予算編成で考えたい。

問 こだまの森の利用料金が、村民に優遇された料金設定にならないのか。

答 会社からは同じお客さんとして一律料金設定したいと言われていると回答があった。

問 ソサイチコートは、今どうやっているのか。

答 現在、観光協会でスキー場営業と一緒にチラシ配布の営業を続けていると回答があった。

■ 補正予算

観光宣伝費

問 スキー場等観光宣伝費として、150万円の説明を求める。

答 国道361号線の権兵衛橋2号橋台崩落により当スキー場へ伊那方面からの入込客が減少することが予想され、このことは会社の責任ではなく昨年の実績により150万円のリフトシーズン券補助をするものである。

意見 支援については、やむをえないとした。

塩沢水源地

問 塩沢水源地井戸水の状態はどうか。

答 現在ウォータープールに土砂が溜まり取り除く事業で、木曾建設事務所との話の中で単独事業として対策を講じている。毎年やらなければならない大事な事業である。

■ 木祖村自治会陳情

問 陳情の把握について。

答 継続分は把握しているが、新規分は今後現場を見て関係者と協議をする。

通学路

問 通学路等に係わる箇所など優先的にできないか。

答 必要な箇所を精査し当初予算に計上したい。

問 菅の「杣沢」工事関係で傷んだ道路舗装を工事完了後には、復旧してほしいがどうか。

答 要望に沿うようにしていきたい。
他を含め、自治会要望関連は（採択）した。

議員の活動研修報告

令和元年
11月7日

光商会プラゴミ、生ゴミのリサイクルセンター、 広域連合クリーンセンターの視察研修

光商会プラゴミ、生ゴミのリサイクルセンター、広域連合クリーンセンターの視察研修を行った。純度90%以下だと業者から契約を切られることから、収集されたゴミは人の目と手による分別が行われていた。収集された袋には不分別物が混入していて、それは驚く物であった。



次に生ゴミリサイクルセンターを訪ねた。郡内は元より松本市等、他の市町村からも収集されており、約80日を要して堆肥にリサイクルされる。次に昨年4月1日に稼働開始したクリーンセンターを見学した。施設長より建設計画の経緯他、説明を受けた後施設内の見学を行った。内部はテクノロジーを駆使し清潔感がありゴミ処理場とはかけ離れた感じを持った。この施設の耐久年数が30年である。驚くと共にゴミ処理にかかる費用の大きさを認識させられ、我々一人一人成すべき使命と作業がある事を心に刻んだ。最後に職員の方から堆肥を使ってくださいとの声をかけていただいた。

報告 大久保 繁子 (厚生文教)

令和元年
12月4日

緩衝帯作業後の現地踏査

緩衝帯作業後の現地踏査を行いました。肌寒さを感じる中で場所によっては、数か月が経過しているにもかかわらず、藪はきれいに切り取られ、整備されており、その景観は美しさと清らかさを我々に与えてくれました。作業に当たっては大変だったであろう事を感じ、作業者に対して感謝すると同時に、蘇るわが村の美観にも感謝の思いを添えた。全て作業後の場所を踏査できませんでしたが、緩衝帯整備には、課題があることを確認し、今後の検討事項として心に留め、踏査を終えた。 報告 大久保 繁子 (産業経済)

令和元年
12月19日

味噌川ダムの災害対策

味噌川ダムの災害対策について、議会最終日、全協議会にて味噌川ダムの武田さんからダムの機能や利水の権利や治水の件で災害時排水量など説明を受けた。事前放流の関係には、国土交通省基幹指示のもと連絡を取り周辺の地域状況・状態・現状を早急に判断し放水の管理に努めているとの事であった。この木曾川沿線には30局のスピーカーなどでダム湖の水量を放送しながら、地元は元より下流域の住民に甚大な被害が及ばないように徹底管理・業務に携わっているとの説明であった。詳しい情報提供に関しては、味噌川ダムのホームページを検索していただき住民の方々にもご理解をいただければと話された。

報告 鈴木正弘 (厚生文教・産業経済)

令和元年
11月21日

加工施設見学



令和元年
12月5日

スキー場安全祈願祭



令和元年
12月6日

加工施設竣工式



議会と住民懇談会

例年3ヶ所で開催していた「議会村づくりサロン」を新規一転し、多くの村民の方々とより多くの意見を交換できる機会とするため、地域の役員会や常会にお邪魔して、懇談をさせていただきました。ご協力いただいた自治会長さんを始め、地域住民の皆様に対して、この場をお借りしお礼申し上げます。

令和元年 菅地区自治会 (2区・3区・4区)

日時 11月24日(日) 19:30~21:00
場所 菅公民館 区民 (18人)
議会出席者 古畑、深澤、栗屋、田上、安原、鈴木、丸山、田中
挨拶 菅連合自治会長 小林 茂
議長 古畑節行

懇談内容

栗屋議員から「道しるべ」議会9月会議の報告、これを元に懇談会が開かれました。

菅地区生産森林組合関係の質問があり、スキー場の

問題や道路補修などの話し合いが多くでした。本年度スキー場あり方検討会に女性のメンバーが入っていないので女性側からの意見が聞けない。スキー場も大事であるが「こだまの森の活用」も考えてほしい。スキー場内の道路舗装工事が中々進まない。加工センターの雇用と生産者の問題・あやめ池周辺の景観・「杣澤」や「久保田」工事の問題や自治会見直しが進んでいるのか。連合自治会長選出についての問題点等数多くの質問がありました。意見については、行政に伝えるとして解散をしました。



令和元年 10区-2自治会

日時 12月12日(日) 19:30~20:30
場所 青年の家 区民 (20人)
議会出席者 古畑、深澤、田上、鈴木
挨拶 10区-2自治会長 坂下 昭
近年10区-2は、新しい住宅が多くなって来ています。軒数がもう少しで100軒になります。

懇談内容

数原原町では、主に鳥居峠への観光道路に対しての話が多くだされました。

内容は、近年原町界限では新築住宅が増え、昔ながらの住みやすい場所として落ち着いた地域になっているものの、最近では村外からの観光客などで昼間、人の流れを感じる事など穏やかで生活感を感じている地域に発展しているとの事。



ただ、道路幅も狭く、交通の面で安全に気を使わなくてはならない。これからの道路においては、高齢者や子どもの安全対策が必要不可欠である。定住に伴う人口増・安全・安心・景観等、そして観光面としても

これからの問題点など様々なご意見が聞かれました。そして深夜など睡眠を妨げられる騒音の問題点もあり、今後地域において解決していく課題など、住民には新たな悩みがあることを知りました。他には村のアンケートが多すぎる事や、イベント等行う行政の事業で赤字にまでして行う事はいかなものか等…地域の意見を行政に伝えるとして解散をしました。



令和元年 18区自治会

日時 12月13日(金) 19:00~20:00
場所 18区公会所 住民(20人)
議会出席者 深澤、安原、大久保、丸山
懇談内容

18区ならではの意見は、お互いの住宅の脇に河川や沢などの関係で、雨量の多い時の災害関係に対する意見が話題になり、左岸・右岸・沢などの早い工事の

要求や、加工場に対して生産者の納入関係、また街灯に関する質問、アンケートは余り提出されないなど。そして小木曾全般にバスとJR時間のズレなどの話もあった。後は、木祖村自治会統合などの意見が出ました。地域の意見を行政に伝えるとして解散をしました。

令和元年 16区自治会

日時 12月14日(土) 19:00~20:00
場所 16区公会所 住民(25人)
議会出席者 丸山
懇談内容

16区地域の課題になっているのが、林道の整備、雨水など排水が進んでいない、豪雨には、土砂の流入

が一番怖い、村単対応ではなかなか進まないの対策を早く進めてほしい。

役場職員の休職者が多いため、必要とする用事がなかなか捗らず、2~3日後に郵送で送られるケースがあった。役場内の機能はどうか？

地域の意見を行政に伝えるとして解散をしました。

令和元年 9区-1自治会

日時 12月19日(日) 19:00~20:00
場所 ときわ集会場 9区役員(9人)
議会出席者 古畑、深澤、鈴木
挨拶 9区-1自治会長 日野文平
懇談内容

9区-1組では、高齢化が進んで独居老人家庭が5~6件ある。若者が少なく子どもの数も少ない関係で、これからの自治会運営に非常に苦しい現状であるとのこと。やはり若者が少なく次の自治役員を引き受ける方が高齢であったり、仮に若い方で自治会長を引き受けてもサラリーマンでは、自治会長の仕事量・配

布物などが多すぎて自信がない。また女性部の関係も今後2回~3回、役を受けなくてはならない事になると大変との意見もありました。

そして町中の住宅事情で、空き家倒壊危険家屋があり風に煽られてゴミが飛んできて近所に迷惑がかかっている。また裏道の舗装問題や町中の景観等の話がある。いろいろ出ました。

町並は、町並ならではの問題があると感じました。地域の意見を行政に伝えるとして解散をしました。



一般質問

村政を問う

9 議員19件

鈴木 正弘 議員

- 1 自治会陳情書の現状と今後の対策について
- 2 鳥居峠の景観に森林環境税を生かせないのか

田中 寛幸 議員

- 1 高齢ドライバー対策
- 2 村の加工施設の開設に伴い
- 3 役場職員の勤務状況について

安原千佳世 議員

- 1 新たな『まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定に向けて
- 2 機構改革と内部統制の整備に向けて

栗屋 正一 議員

- 1 緩衝帯整備事業について
- 2 「日本で最も美しい村」づくりに加盟について

田上 芳朗 議員

- 1 村民が体感できる予算編成を
- 2 村長は村民の考え、要望を把握しているか

青木 功 議員

- 1 適正な職員定数

丸山 幸一 議員

- 1 遊休農地解消に向けて
- 2 農地流動化について

大久保繁子 議員

- 1 新しく設置される受付け業務について
- 2 福祉に優しさを
- 3 新しい加工所の稼働について

深澤 衿子 議員

- 1 源流の里が長寿の村となるために
- 2 地域おこし協力隊について



鈴木正弘 議員

自治会陳情書の現状と今後の対策を問う

答 事業展開など進捗を30%以上になるように努力したい

問 陳情書要望は、平成30年度12月木祖村連合自治会より、村長・議長へ次年度の予算編成に合わせ180件（継続が113件・新規が67件）だった。それを含め、まだ数多くの要望が残っている。現在庁内でどの程度が処理されてきたか。建設水道課が多いのだが進捗実態を知りたい。

副村長 平成30年度の自治会要望、また現在着手しているものも含めた進捗状況は29%である。県に要望する事業もある中、思うように進んでいないのが現状である。

問 生活環境や通学路の改善や防犯防災・観光に係わる内容になっている。村の第5次総合計画や総合戦略、また第6次総合計画を活かす為に進展しない継続要望が何年もつづいているようでは地域住民にとっては「とまどい」の声も聞かれる。どのように受け止めているのか。

副村長 規模の大・小に拘わらず緊急性を優先し、限

られた予算で住民の要望に応えていきたい。工事発注も住民の方々に迷惑のかかりにくい時期に実施するよう心がけたい。

問 藪原町並・横道の道路改良など、現在では約40年から50年近くアスファルト舗装の改良がされて無く、下水道本管などもかなり終わり、道路はところどころ修復した箇所が多く見受けられる。第6次総合計画の中に、町並舗装事業等の関係で村当局のお考えがあればお聞きしたい。

副村長 街並などの観光道路も、将来的には整備をしていきたいが、この件についても緊急度の高い物件からの工事になる事をご理解いただきたい。

意見 少しでも未解決の陳情要望が減れば村民の理解も得られ地域が良くなると思われる。そして各自治会長の方々も張り合いをもって活動と行動ができるのではないかと思う。

他 <<鳥居峠の景観に森林環境税を活かせないのか>>



安原千佳世 議員

新たな「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けて

答 公約した施策はほぼ達成はしつつあると考えるが、残したことは今後取組む

問 現在の木祖村創生総合戦略は平成27年度からの5年間の戦略で、唐澤村政と歩みを共にしてきた。第2期の総合戦略策定に向け、この5年間の総括していただきたい。

村長 村長就任時に村が生き残れると考えた施策と国の総合戦略が合致した。それで木祖村総合戦略を策定し公約となった。

- ①仕事を作る
- ②若者を残す
- ③結婚出産子育て支援をしっかりとやる
- ④高齢者の健康寿命を伸ばす

この4つをきちんと実行すれば村は生き残れると考えて取組んできた。現在新たな戦略策定に向けて村民にも参加いただき検証中である。不足している点の仕事作りの面で白菜農家の育成とお六櫛の後継者の育成は難しいと痛感した。新たな知恵を出して引

続き取組む。結婚支援についても重要課題として捉えており新たな施策が必要と考える。一方子育て支援は他地域に引けを取らない内容であるとする。高齢者対策も相当高いレベルにあると考える。安全安心な地域作りという点では、奥原医院に県道沿いに出ただき、また息子さんに承継していただき、2人体制で診療をみてもらうこととなった。これは他地域にはない。お年寄りも安心したことと考える。また社協の事務所の耐震対策として新たな福祉施設を建設することにした。お年寄りや若者のコミュニケーションの場所として活用される予定である。藪原の国道入口の改良工事はほぼ完成し、砂防活山対策も相当取組めた。町並の活性化対策については、笑ん館設置後、地域の人に参加していただきワークショップを実施し、空き家再生プロジェクトをすすめている。

他 <<機構改革と内部統制の整備に向けて>>



田中寛幸 議員

高齢者ドライバー対策は

答 国や県と併用できないか等、実行していきたい

問 高齢者による自動車事故が悲しいことだがテレビ、新聞を賑わせている。ペダルの踏みまちがいによる急発進抑制装置を取り付けた車、後付け装置を取り付ける際の補助事業は考えているのか。

総務課長 高齢ドライバーの交通事故が社会問題となっている。高齢者による交通事故防止に向けた補助制度を令和2年4月スタートを目指して現在検討中である。具体的な対象者は65歳以上自己所有の車両、安全運転サポート車の購入3万円。ペダル踏み間違い後付け装置は2万円。村単独の事業と国の補助事業の併用なども含めて制度設計を検討していきたい。

問 村は返納者の対策として、ひまわり号・たんぼぼ号の無料バスを出しているが…

- ・その利用状況は？利用者の声は？
- ・また、村営バスやデマンドタクシーの車いすの利用

が可能か？

- ・病院以外に、村外へ買い物などでも利用したいとの声があるが、どうか？
- ・返納者が多くなると考えられるので車両の台数を増やすとか高齢者が乗りやすい手すりのある車両に変更できるか？

総務課長 デマンドタクシーの利用者は激増していますが、村内巡回バスの利用者は減少している。車両等の車いす、手すりなどのついた車種変更については更新時に委託会社と導入可能か検討していく。病院以外での利用に関しては、現在では出来ない為、高齢者買い物支援などと一緒に議論する必要があると認識している。

他 <<村の加工施設の開設に伴い>>
<<役場職員の勤務状況について>>



新機構に於ける窓口業務を危惧する

答 万全を期します

大久保繁子 議員

問 4月1日から始まる統合窓口業務は、通常業務に接客という内容が加重されるが、これに携わる職員には負担がかかると思われる。更には特設されることにより、村民の目も、要望も強く高くなると予想される。職員の人選、教育、ケアはどう考えるかを問う。

副村長 窓口業務の特性を考慮し、人選は慎重に且つ適正に行う。木祖村の顔ともなり、職務をスムーズに遂行する上でも又住民に十分なサービスを行う点からも教育は必要だと考える。更には携わる職員のストレスやプレッシャーを感じたりして、解決できない問題などを抱えることがないように、細部に渡ってこれをフォローしていく。

意見 職員にとって働きやすく、明るいチームワークの取れた職場づくりを目指していただきたい。

問 福祉の優しさを！木祖村の多目的トイレに長椅子（ベッド）の設置がない。今後道の駅は、加工所が隣設されたことで利用が増えることが予想される。それらの人達のニーズに応える為に、多目的トイレには長椅子を、駐車スペースには雨除けの設置を願う。

農林課長 多目的トイレには様々な条件が必要である。それを踏まえて現トイレに即、設置可能かを検証したい。又道の駅のみならず、村内の多目的トイレにも設置可能かを検証し実現に向けて努力する。

他 <<新しい加工所の稼働について>>



遊休農地の解消に向けて

答 あらゆる面から検討する

丸山幸一 議員

問 年々遊休農地が増す中で今後いかに有効活用していくか。初めに現在の農地の総面積とその内訳はどれほどか。

農林課長 水田15.8ha 白菜25ha ソバ38ha
その他の野菜8.6ha 飼料作物55ha 遊休農地（再生可能農地14.6ha 再生不可能農地37.6ha）合計194.6haである。

問 ソバの作付けは年々増える中でオペレーターの高齢化、機械施設の老朽化も含め人材確保をどう進めるか。又農産物加工センターを核として、遊休農地を活用し活性化していくための方策は。

農林課長 今後組織化も必要である。その中で人材確保や適品種の選定等、ファーム木祖・源や農家の方と共に検討し地域6次産業化に向けて取り組む。

問 温暖化により木祖村でのワイン用ぶどう栽培が可能とのことであるが、村としても検討してみることはどうか。又畜産での牧草作付は一杯になってきている中で、遊休農地への放牧を進める方策はどうか。

農林課長 ワイン生産から酒樽生産まで村内で農地や木材が活用され新たな特産となれば素晴らしい。具体的な動きが出た中で村としての支援も考える。遊休農地への放牧については、畜産関係者で検討整理された上で、村としても支援したい。

他 <<農地の流動化について>>



青木 功 議員

適正な職員定数の確保に向けて

答 現状維持で極力職員への負担軽減を図っていく

問 現在の役場職員の定数は適正と言えるのか。

副村長 定数条例に基づき現在の定数となっている。一人一人の業務量は増加しているが、それぞれ職員の弛まぬ努力と外部委託等により住民のニーズに対する体制は保っていると考ええる。

問 村外でのイベントが多い中で通常勤務外の出勤に問題はないか。

副村長 下流域との交流は本村にとって非常に大切な事と考えており、近年益々盛んとなる中で郡内の他町村と比較してもイベントの実施機会は多いと言える。休日出勤に対しては振替休日の取得等で対応している。下流域との交流事業に携わる職員の超過勤務は、他の職員と比較して多い事は事実であり、この状況を変えていく事が今後の課題となる。

問 産・育休、休職、退職等により残された職員への業務負担増が懸念される。男子の育児休暇は少子化対策として国も推奨しているところであるが対応策は。

副村長 現在、育児休業、休職、退職が出た場合、円滑な業務執行の為に業務分担の見直し、嘱託の職員の代替で支障が生じないように対応している。女性社会進出の為に市庁内での男性育児休暇取得の推進にも務めていきたい。

問 職員への負担軽減策として職員の増加、イベントの効率化が必要ではないのか。

副村長 現在、職員定数を喫緊に増やす事は考えていない。しかし、職員への負担軽減策としてイベントの効率化、必要性の観点から見直しを進めていきたい。



田上芳朗 議員

村民が体感できる予算編成を

答 笑顔、笑い声が絶えない村を創るための予算編成に努める

問 村長の公約に対する自己評価と多額投資した施設整備の波及効果が村民に理解されていない。身近なところへの支援、村民が体感できる予算編成を望むが対応を伺う。

村長 自己評価は、公約の8割達成できた。残任期間で100%達成に努める。整備した施設は、地元関係機関と協力し、誘客に力を入れ、有効利用することで、地元への波及効果をねらう。笑顔、笑い声の絶えない村を創るための予算編成をしていく。

問 村長は出張不在が多い。村民の考えをどう把握し、トップセールスとしてどう動いているかを伺う。

村長 アンケートや保育園、小学校の保護者とは、直接会って要望等を聞いている。今後、村民との懇談会も計画している。自ら出かけ、声を聞くことは村づく

りの基本だと思っている。村民の願いを実現するために、国、県の省庁へ出向き木祖村のセールスを行っている。また下流域の市とも人脈を築いている。これは、村長として私の基本姿勢である。

意見 田上議員として、木祖村三役の笑顔と村民の立場で物事を受け止める姿勢のトップセールスを期待する。

他 <<村長は村民の考え、要望を把握しているか>>



栗屋正一 議員

緩衝帯整備事業の見直しを問う

答 制度見直しの時期に来ている対応を考える

問 10年を迎えた緩衝帯整備事業の現状は。

農林課長 各地区の登録者は菟原（4名）小木曾（10名）菅（14名）で全体の平均年齢は70歳、作業面積は各地区で違いはありますが、全体では27.4町歩となっている。作業現場の選定については自治会からの要望や各地区の作業リーダーを中心に地区内での要望を聴きとり、一部村からの要望を含めて行っている。

問 作業員の高齢化が問題であり耕作放棄地が増えることが予想される。効率よく緩衝帯を整備するには機械力（ハンマーナイフ）を導入し成果をあげるべき。最近ではスキー場のグレンデの草刈りをする安全で性能の良い機械（遠隔操作）も出ている。平坦地は機械で狭い斜面については作業をやる方法がよい。

農林課長 事業の内容としては農地に接続する山林との間を整備実施することを基本として想定している。

農地は個人で管理してもらおうという考え方だが、現実には、不在者農地などもあり、現実には農地についても実施している。村に機械は2台ある。

問 村の草刈り払い機械が活動しているのは見かけないが。

農林課長 緩衝帯整備の雇用制度についても再考の時期にきているので、あわせて機械の導入についても考えていく。

意見 最近ではイノシシが山と農地間の緩衝整備だけでは慣れてくると、耕作放棄地に潜みそこを住み家にして農作物を荒らしていると聞く。村としてよい対策を考える必要がある。

他 <<「日本で最も美しい村」づくり加盟について>>



深澤衿子 議員

源流の里が長寿の村となるために

答 この先、検討していく

問 村も100歳の方が増えて喜ばしい事で、「長寿の村」といえる福祉の充実を村民の望む形にしたい。村として介護保険を使わなくても使えるサービスはあるのか。

調整幹 どのような状況でも相談窓口を通し、その方の悩みや心配な事を少しでもやわらぐよう取り組み、介護保険以外のサービス提供も行っている。

問 加齢による難聴の方が増えているが、村として、手帳がなくても補聴器購入の補助はできないか。

住民課長 加齢による身体機能の低下は様々であり、聴力のみで特化した補助は現段階では考えていない。健康福祉計画を策定中であり、その中で課題となっているとしたら検討したい。

問 難聴の方がより広い会場などで補聴器により音を聞き易くするための「ヒヤリンググループ」という機器

があるが、村で用意し、貸し出しもできるように購入できないか。

住民課長 塩尻市など市町村で使われているようだ。実際に見て、この先検討したい。

意見 本人が補聴器を利用することにより、生活にハリが出て元気に過ごせる事が大切。これが長寿の村となるので前向きに検討いただきたい。

他 <<地域おこし協力隊について>>

現在、頑張っている隊員がいて村として心強く思う反面、担い手確保のための若者は村として育てていない。しっかり反省と、選考の基準等見直す事、地域の中でしっかり若者を受入れ育てるための、地域の人の学びの場を提案したい。

横山 文雄さん 小木曾

その昔雪上エスカレータースキーの時代から50年間ずっとリフトの監視をやっています。夏はナイターソフトボールの監督もやっていて、試合後の懇親会では自分で釣ったイワナをふんだんに振る舞ってくれます。



篠原 長平さん 菅



丸山口マンズリフトでお客さんの安全を見守っています。今年度は連合自治会長さんとして活躍されています。残り後わずかとなりましたが頑張ってください。

奥谷あけみさん 藪原

受付窓口でお客さんの対応やアナウンスをしています。スキーの腕前はかなりのものですが、それ以上に歌が上手で聞き惚れてしまいます。夏の間は白菜などの野菜を栽培しています。



編集後記

議会報も先輩議員の指導を受けながら新人の編集委員で取り組んできました。なるべく読みやすい構成にし、村会議員の行動や実施事業の掲載をしています。

今回は、多くの議員の一般質問も掲載していますので議会活動が少しでも皆様に伝わればと思います。

子年は、新しい運気のサイクルの始まりです。植物に例えると成長に向かって種子が膨らみ始める時期であり未来への大いなる可能性を感じさせます。またねずみは『ねずみ算』という言葉があるほど子どもを産んで数を増やしていくことから『子孫繁栄』の象徴であります。木祖村の発展と皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

木祖村議会報編集委員会 委員長 鈴木正弘 委員 安原千佳世 大久保繁子 田中寛幸 丸山幸一

元気発見!

むらびと大図鑑

やぶはらスキー場を支える
スタッフと未来の子ども

五月日由紀子さん 小木曾

埼玉県から木祖村へ嫁いできました。冬は、ほのぼののハウスにいます。夏は「こだまの森」の仕事をしています。他にも仕事を持っていて頑張っていて走り回っています。双子の兄弟は昨年成人式を迎えました。

寺平 ^{あや}礼さん 小学校1年生と
弟の 悠吾 君 3歳

小木曾

表紙の凧揚げをしている少女が礼さん右で、となりは弟の悠吾君です。最近あまり見かけなくなった風景で、思わず表紙にしてみました。お母さんは『きそむら体操』でもお馴染みの単さんひとこです。



木祖村議会報編集委員会 委員長 鈴木正弘 委員 安原千佳世 大久保繁子 田中寛幸 丸山幸一